

地域協議会の取組について

平成29年3月28日
福岡県保健医療介護部薬務課

平成28年度の福岡県的主要な取組について

- 福岡県ジェネリック医薬品使用促進協議会の開催
 - － 第1回:平成28年7月20日実施済み
 - － 第2回:平成29年3月28日実施予定
- 地域協議会の開催(福岡市、北九州市、田川地区)
 - － 基幹病院採用ジェネリック医薬品リストの作成 等
- 県民向け普及啓発資材の制作、配付
 - － 医療保険制度の維持等に貢献できることを主眼とした啓発の実施
- レセプトデータの分析
 - － 地域別、薬剤別、レセプト種別等の分析を実施
- 差額通知モデル事業の補助(後期高齢者医療広域連合)
- 県政出前講座(一般県民向け講座)の実施

地域協議会について

【設置目的】

地域におけるジェネリック医薬品の使用促進のための事業についての情報を共有し、連携を強化するために、有識者及び関係団体等による地域協議会を設置する。

【これまでの設置地域】

地域	設置時期	協議会における主な取組
筑紫 飯塚	平成23～24年度	地域基幹病院のジェネリック医薬品 採用品目リストの作成・配布
八女筑後	平成26～27年度	
北九州市	平成25～28年度	
福岡市	(平成29年度以降も継続予定)	
田川	平成26～28年度 (平成29年度以降も継続予定)	

基幹病院採用ジェネリック医薬品リストについて①

ジェネリック医薬品の使用促進を目的として、県内あるいは地域の基幹病院が採用しているジェネリック医薬品のリストを作成し、医療機関・薬局に配布

【内用薬】

成分名	規格	ジェネリック医薬品名	メーカー名	先発医薬品名	メーカー名	採用施設数 (北九州)	採用施設数 (福岡)	採用施設数 (筑豊)	採用施設数 (筑後)	採用施設数 (全県)
【循環器剤、抗不安剤】										
トリアゾラム	0.125mg1錠	トリアゾラム錠0.125mg「EMEC」	サンノーバ	ハルシオン0.125mg錠	ファイザー	1	1		1	3
フルニトラゼパム	1mg1錠	フルニトラゼパム錠1mg「アメル」	共和薬品工業	サイレース錠1mg ロヒプノール錠1	エーザイ 中外製薬		1		1	2
	2mg1錠	フルニトラゼパム錠2mg「アメル」	共和薬品工業	サイレース錠2mg ロヒプノール錠2	エーザイ 中外製薬				1	1
プロチゾラム	0.25mg1錠	グッドミン錠0.25mg	田辺三菱製薬	レンドルミン錠0.25mg	日本ペーリンガーイ ンゲルハイム		1	1	1	3
		プロチゾラムM錠0.25「EMEC」 レンドルミンD錠0.25mg	サンノーバ メディサ新薬				1			1
ジアゼパム	2mg1錠	ジアゼパム錠2「サワイ」	沢井製薬	2mgセルシン錠	武田薬品工業		1			1
	5mg1錠	ジアゼパム錠5mg「アメル」	共和薬品工業	5mgセルシン錠	武田薬品工業		1			1
プロマゼパム	2mg1錠	セニラン錠2mg	サンド	レキソタン錠2	中外製薬	1			1	2
	5mg1錠	セニラン錠5mg	サンド	レキソタン錠5	中外製薬	1			1	2
ロラゼパム	0.5mg1錠	ユーバン錠0.5mg	沢井製薬	ワイバックス錠0.5	ファイザー				1	1
	1mg1錠	ユーバン錠1.0mg	沢井製薬	ワイバックス錠1.0	ファイザー				1	1
アルプラゾラム	0.4mg1錠	アルプラゾラム錠0.4mg「トーワ」	東和薬品	コンスタン0.4mg錠 ソラナックス0.4mg錠	武田薬品工業 ファイザー	1			1	2
	0.8mg1錠	アルプラゾラム錠0.8mg「トーワ」	東和薬品	コンスタン0.8mg錠 ソラナックス0.8mg錠	武田薬品工業 ファイザー				1	1
トフィソパム	50mg1錠	グランバム錠50mg トロンヘイム錠50mg	東和薬品 日廣工ファーマ	グランダキシン錠50	持田製薬	1			1	1
ロフラゼプ酸エチル	1mg1錠	メデタックス錠1	メディサ新薬	メイラックス錠1mg	Meiji Seika ファルマ				1	1
クアゼパム	15mg1錠	クアゼパム錠15mg「MNP」	日新製薬(山形)	ドラル錠15	久光製薬		1		1	2
ゾピクロン	7.5mg1錠	アモバンテス錠7.5	小林化工	アモバン錠7.5	サノフィ・アベン ティス		1			1
		ゾピクール錠7.5	沢井製薬				1			1
		ゾピクロン錠7.5mg「トーワ」	東和薬品					1		1
	10mg1錠	ゾピクール錠10 ゾピクロン錠10mg「トーワ」	沢井製薬 東和薬品	アモバン錠10	サノフィ・アベン ティス		1		1	1

基幹病院採用ジェネリック医薬品リストについて②

対象地域	配布時期	基幹病院数	配布先	備考
福岡県全域	平成27年2月	12施設	県内21医師会:計4462部 県薬剤師会:2500部	平成21年3月、 平成24年10月にも 配布
福岡市	平成27年3月	13施設	福岡市医師会及び基幹病院 :計1430部 福岡市及び周辺の薬剤師会 :計1040部	各地区の地域協議会に リスト作成委員会を設置し て作成
北九州市 (八幡地区)	平成27年3月	6施設	八幡及び周辺の医師会:計476部 八幡及び周辺の薬剤師会:計1120部	
八女筑後地区	平成27年3月	2施設	八女筑後医師会:107部 八女筑後薬剤師会:75部	
田川地区	平成28年1月	2施設	田川医師会:100部 田川薬剤師会:85部	

5

最近の地域協議会の実施状況(①北九州地区)

【平成28年度第1回】

1. 日時:平成28年11月22日(水)16:00~17:30
2. 場所:北九州市役所
3. 議論内容

- (1) 福岡県における取組と最近の動向について
- (2) レセプト分析について

(3) 八幡地区基幹病院採用ジェネリック医薬品リストの配布及びアンケート結果について

本リストの配布先である八幡医師会会員及び八幡薬剤師会会員に対するアンケート調査の結果について報告され、今後もリストの必要性が高いと考えられた。それを踏まえて今後以下の方針で取り組むことについて合意された。

- ・ 八幡地区のリストについては今後更新を行っていく
- ・ 小倉地区でのリストを作成する
- ・ 本協議会の委員任期が満了を迎えるが、協議会を引き続き継続して実施していく

6

最近の地域協議会の実施状況(①北九州地区)

(4) その他

協議会全体を通して、今後の使用促進に向けた課題等について議論を行った。
委員からの主な意見は以下のとおり。(議事概要からの抜粋、一部改変)

- 一般名処方について
 - ・ 一般名処方を原則とすればよいと考える。
 - ・ 医療機関において一般名処方を簡単にできるシステムの導入が推進されるとよいと思う。
 - ・ 医療機関においても処方箋発行等はレセコンを使っている場合が多く、設定さえすれば一般名が自動で出てくるはずである。
- 患者への啓発、説明について
 - ・ 患者への軽減額通知には、自己負担分だけでなく、医療費全体として軽減となった額を記載してはどうか。
 - ・ 処方の際に患者から説明を求められることが多々あるが、皆保険制度の維持などのために国として推進していることを説明した簡単な説明書きがあると助かる。

7

最近の地域協議会の実施状況(②福岡地区)

【平成28年度第1回】

1. 日時:平成29年1月18日(水)14:30~16:30
2. 場所:あいれふ
3. 議論内容

- (1) 福岡県における取組と最近の動向について
- (2) 福岡市における取組について

【国民健康保険課】

- ・差額通知事業、希望カード・シールの配布、広報事業の実施

【保護課】

- ・後発医薬品の利用状況をテーマとした福祉事務所の監査
- ・院内処方の規模が大きく、数量シェアが特に低い医療機関への協力依頼

- (3) レセプト分析について

8

最近の地域協議会の実施状況(②福岡地区)

(4) 福岡地区基幹病院採用ジェネリック医薬品リストのアンケート結果について

本リストの配付先である福岡市医師会員及び福岡市薬剤師会員に対するアンケート調査の結果について報告され、今後もリストの必要性が高いと考えられた。それを踏まえて今後以下の方針で取り組むことについて合意された。

- ・ 福岡地区のリストについては今後更新を行っていく
- ・ 本協議会の委員任期が満了を迎えるが、協議会を引き続き継続して実施していく

最近の地域協議会の実施状況(②福岡地区)

(5) その他

協議会全体を通して、今後の使用促進に向けた課題等について議論を行った。

委員からの主な発言、意見等は以下のとおり。(議事概要からの抜粋、一部改変)

- 一般名処方について
 - ・【DPC病院】全て一般名処方としているが、適応症の相違で査定を受ける事例がある。薬局では処方箋のみでは病名がわからないので、処方箋に「先発品にしかない適応です」といったコメントをつけていただくよう医師に依頼している。
 - ・【薬局】医師の処方通りのものを希望される患者は、たとえ変更可であっても処方箋に先発品名が記載されていると先発品を希望されるので、一般名処方の方が患者への説明がしやすい。
- 基幹病院での使用状況について
 - ・【DPC病院】使用率は79～88%である(病院薬剤部の各委員が自院の数値を発表)。
 - ・【DPC病院】テープ剤、湿布剤については使用感の違い等により切替えにくい面もあるが、ジェネリック医薬品にも優れた製品を出しているメーカーも増えてきており、当院ではほぼ切り替えている。
 - ・【DPC病院】安定供給は重要であるので、過去の製品回収事例の有無等も見ながら、品目選定を行っている。

最近の地域協議会の実施状況(③田川地区)

【平成28年度第2回】

1. 日時:平成29年3月22日(水)12:30~13:30

2. 場所:田川保健福祉事務所

3. 議論内容

(1) 田川地区各市町村国保における取組について

(2) 他地区の地域協議会における取組について

(3) ジェネリック医薬品に関するアンケート結果について

(4) 田川地区における今後の取組について

- ・県内他地域と比較して普及率が低いこと等から引き続き協議会を継続して実施する
- ・また継続にあたっては、医療関係部局だけでなく保護部局も連携して実施する

11

最近の地域協議会の実施状況(③田川地区)

(5) その他

協議会全体を通して、今後の使用促進に向けた課題等について議論を行った。

委員からの主な発言、意見等は以下のとおり。

● 基幹病院での使用状況について

- ・使用率は88~92%である(病院薬剤部の各委員が自院の数値を発表)。
- ・DPC病院ということもあり、院内にジェネリック医薬品に抵抗を示す医師はほとんどいない。
- ・他の大病院で採用実績のある品目だと、院内の医師の理解が非常に得られやすい。

● その他

- ・【薬局】先発よりもジェネリック医薬品の方が製剤的に優れているものもある。例えば、味の改善や注射時の痛みの軽減などを図ったものがある。
- ・【医師会】被保険者の年齢層別でのジェネリック医薬品使用状況の分析を行うなど、ターゲットを絞ったうえでの対策の検討が必要。
- ・【市町村国保】差額通知送付者の一部に対して、個別訪問を行い、ジェネリック医薬品への切替を促している。

12